



## CONTENTS

「不特定多数はホントにキケン？ ～女性のセックスと特定神話～」	01
第9回アジア太平洋地域エイズ国際会議 参加レポート	02
ぶれいす東京 新人ボランティア合同研修会	03
ゲイバーを通じた地域介入プログラムについて	04
ネストより	06
部門報告 (2009年7～9月)	08

## 「不特定多数はホントにキケン？ ～女性のセックスと特定神話～」

大阪教育大学 准教授 野坂 祐子

「出会い系サイトはキケン」「セックスをしてお金をもらうなんて、イタイ目にあうに決まってる」「やっぱり、愛のあるセックスが一番！」——女性のセックスにまつわるこんな言説、よく見聞きしますが、はたして本当なのでしょうか？確かに、ニュースでは出会い系サイトを通じて知り合った男女の殺人事件がセンセーショナルに報じられ、不特定の相手とセックスをすることの危険性やモラルの低下が指摘されることがよくあります。

そんな社会的非難も影響してか、“個人的にお金を得るセックス”については、学校での性教育でももちろんのこと、女性向けのHIV/AIDS予防の情報のなかでも触れられてきませんでした。プロのセックスワーカーへの情報提供と、一般女性に向けたメッセージは、従来、内容が異なると考えられてきたのです。

ところが、インターネットや携帯電話の普及に伴い、性風俗店に勤務せずとも、出会い系サイトなどを利用することによって、個人的にセックスをしてお金を得る手段が広がりました。性産業におけるプロとアマチュアの垣根が低くなり、いわばセックスワークのボーダレス化と呼ぶべき現象が起きています。女性のセックスが多様化しているともいえるかもしれません。

こんな現代女性のセックスの実態を把握するために、18歳から29歳の女性を対象としたwebアンケートを実施しました。この調査は、厚労省エイズ対策事業「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」(研究代表者：東優子)の一環で行われたものです。2007年度から2年間にわたって実施した調査ですが、ここでは2,264名の回答が得られた初年度調査の結果の一部を紹介します。

まず、「(性風俗店に勤めずに)個人的に何らかの性行為をしてお金を受け取った」ことがある人は全体の14.2%。「セックスをしてお金を受け取った」人は11.8%で、回答者の約8～9人にひとりの割合です。さらに、セックスとお金をつなぐ主な手段は、「出会い系サイト」でした。

このような金銭目的の不特定の相手とのセックスには、どんなキケンがあるのでしょうか。調査では、お金のやりとりがあったセックスとなかったセックスのそれぞれについて、トラブルの有無を尋ねました。妊娠や性感染症、セックスのときの暴力や、ストーカー被害などです。

結果——女性の8割以上が「妊娠の心配」と「性感染症の可能性」を経験していました。しかし、それは“お金のやりとりのない相手とのセックス”で起きていたのです。お金のやりとりのないということは、おそらく恋人やセックスフレンドなど特定の相手とのセックスが多く含まれるでしょう。いわゆる“愛のある関係性”や“特定の相手とのセックス”は、これまで予防啓発のなかで「安全なセックス」と謳われてきたものです。ところが、実際には“金銭目的の関係性”や“不特定の相手とのセックス”よりも、妊娠や性感染症の不安を感じた経験が多いという結果が示されました。どちらも、コンドームを使わなかったことが原因のトラブルです。

出会い系でのセックスも、キケンがないわけではありません。「相手が好みではなかった」とか「精神的につらかった」などが挙げられました。ですが、半数近くの女性は、相手と会う前に「コンドームを使う」ことを条件にして交渉をしていました。実際には、その約束が守られず、コンドームが使えなかったケースもありますが、それでも女性が事前にコンドーム使用についてはっきりと交渉することは、特定の相手とのセックスではみられにくいことかもしれません。

女性にとってキケンなセックスとは、「お金」でも「不特定の相手」でもなく、むしろ「愛」を理由にコンドームなしのセックスをしたり、「特定の相手なら大丈夫」という“特定神話”を信じたりすることで起こるといえます。

“特定神話”から脱却し、“いつでもどこでも誰とでも”コンドームを使おうというメッセージを広げることが、女性にとってのセクシュアルヘルスをすすめる鍵となりそうです。

# 第9回アジア太平洋地域エイズ国際会議 参加レポート

8月9日-13日にインドネシアのバリで開催された9th ICAAP (第9回アジア太平洋地域エイズ国際会議)に、ぶれいす東京から2名が参加し演題発表もありました。参加者からのレポートをお届けします。

## 「はじめての海外ICAAP参加レポート」

生島 嗣

本年、8月9日-13日まで、インドネシアのバリで開催された第9回アジア太平洋地域エイズ国際会議に出席した。会場は高級リゾートホテルで、隣接してプライベートビーチ、プールがあるという環境だった。

会議には、78カ国から5547人の参加があった。医療従事者、研究者、地域で活動する人達、行政マン、支援団体、さまざまな当事者団体のスタッフ等が集まっていた。24のシンポジウム、5つの講演、投稿演題も2334題あったという。生島は、昨年、都内975カ所の行政や民間の相談窓口がどの程度、HIV陽性者やその周囲からの相談を受けた経験があるのかを調査したのだが、その結果をスタッフの協力で作成した英語ポスターでプレゼンした。



ポスター発表の準備をする生島

インドネシア国内には、27万人の感染者が存在していると推計されているという。国民の4人に3人がイスラム教徒だというこの国で、HIV・エイズの対策を成功させるには、宗教関係者の理解が必須だ。開会式では、各宗教団体を代表した偉い人が並んで、それぞれが祈禱するというセレモニーがあった。また、開会式では、インドネシア大統領、ファーストレディから、男性とセックスする男性、薬物依存者、セックスワーカー等の少数者とその周囲の人達の協力なくしては、この感染の広がり止められないという明確な決意表明があった。

会議場内にブース展示場があり、様々な団体が出席していた。特に、印象的だったのは、HIVOSという人権団体のブースだ。本部はオランダだが、インドネシアにも事務所があるらしい。ポスターには、「同性愛者を含む、すべての市民が平等な権利を持っている世界をつくるために活動している」とある。



HIVOSのブース

また、会議のなかで、インドの参加者からは、同意の

ある同性間の性行為が非合法の枠からはずれたことが報告された。HIVの感染予防を効果的にするためには、誰もがよりよく生きる権利の保証が重要だ。

今回の会議では、東アジアでの感染拡大が懸念される、男性とセックスをする男性 (MSM) とトランスジェンダー向けの啓発が同居しているのが興味深かった。

## 「ある南の島で伝えたいこと」

大槻 知子

8月9日(日)-13日(木)にインドネシアのバリ島で開催された第9回アジア・太平洋地域エイズ国際会議には、アジア・太平洋地域のみならず、世界各地からHIV/AIDSにかかわる人たちが集まり、活発な交流や意見交換などが行われていた。

人びとのエンパワメントとネットワークの強化をテーマに据えた本会議では、地域の実情をある程度反映してか、たとえばMSMであったりトランスジェンダーであったりといったHIV/AIDSに影響をうけやすい層の中でさらにセックスワーカーや注射薬物使用者(PWID)、少数民族、移住労働者、というように、より細分化されたニーズにフォーカスをあてた発表が目立っていた印象がある。

日本はちょうどお盆休みで、バリ島で多くの日本人観光客を見かけたが、観光業に従事するインドネシア人の日本語能力は軒並み高い。一方、会議場では、アクセントの強い英語で、時々会場にいた人の即席通訳を交えながらの「調査対象に対し何か変化をもたらすものでなければ、その調査には意味がない」「よそから与えられた枠組みを越えて、私たち自身の言葉で発言しなければいけない」といった、ある当事者参加型リサーチの発表者たちの強い主張を耳にする機会があった。

変化をもたらさない研究は意味がない。伝えたいことをもたない発表は意味がない。

国際会議の場では英語が重要なコミュニケーション・ツールであったとしても、本当に伝えたいことがある時、その正しい文法や発音を用いているかどうかなどは、さほど関係がないことなのだ。

ある南の島で、わたしは彼ら彼女らほどには語るべき言葉をもたなかったかもしれないけれど、そこで見てきたこと、わたしなりのエビデンスはきちんと北の島国で伝えなければ、伝えたい!…との思いを胸に日本に戻ってきたところである。



バリ風の様式を取り入れた会場入り口



シンポジウムの様子



会議場のすぐ隣にプール!  
左から大槻、生島(ぶれいす東京)、JaNP+のボランティアのじゅんべーさん





# ふれいす東京 新人ボランティア合同研修会

2009年度の新人ボランティアの合同研修が、9/13(日)のオリエンテーションを皮切りに、9/21(月・祝)、9/22(火・休)、9/27(日)の3日間、豊島区立生活産業プラザにて開催されました。

9月の恒例行事となった新人ボランティア研修会を今年度も開催しました。今年は、会場の確保にあたり講師とスケジュールを調整するなかで、不安材料がひとつ。講師と会場の都合でどうしても1週おきで3週連続の日曜日(or 祝日)での開催が難しく、うち2日は連続で開催しなければならないことが判明。それもそこは数年?に1度の秋の大型連休。そんなめったにない連休中に研修をやってどれくらいの人がかかるものか? 2日連続はヘビィではないか? 8日目にしてもやはり不安を覚えつつの準備となりました。

日程は、結局連休のど真ん中の、9/21(月・祝)、9/22(火・休)、の2日と9/27(日)の3日間に決定し募集を開始したのですが、出足はいまひとつ。なかなか難しい…、と頭を悩ませましたが、最終的にオリエンテーションの参加申し込みは40名を越え、例年以上の数となりました。研修には、個別で研修していた方も含めて30名の参加があり、最終的に29名の方が無事に修了しました。2日連続だったことに関して、結果からいえば特に問題なく、皆さん2日目も前日と変わらず、疲れをみせず楽しみながら研修を受けていたのには驚きました。参加者の中には3日連続でもいいのでは? という意見の方もあり、初の試みではありましたがなんとかうまくいった感じです。もちろん、内容は例年と同じく、あれやこれやと参加者に気づきをもってもらうワークや講義をやっているもので、しんどかった方もいたのではないかと思います。ともあれ、皆様お疲れさまでした。



リスクアセスメントのワーク

もう既に部門別の研修やミーティングに早速参加されている方も多くいらっしゃると思いますが、これから皆さんがふれいすのボランティアとして活躍されていくことを期待しています。どうぞ無理のない所で、細く、長く、楽しく活動を続けていただければと思います。

(報告：牧原)

## 「腹に落ちる・お話」

ぐう

支援は正しかったのか? ニーズに合っていたのか? 本音はどうだったのか? など、正しい答えが見つからない霧の中で答えを見つけたいという思いで参加しました。研修を通して「こうあるべきだ、～に違いない」といった思い込みを持ち、医療という「箱」の中で縛られていたことに気づきました。自分を知り、相手を知り、人間の多様性を知る。という、講師陣の皆様からの厳しくも温かな、からくりやメッセージが散りばめられていて、フリーズする思考能力を立て直しながら必死についていきました。研修を受け進める中で「わかってた(つもりだった?)」から「理解できる」へと思考能力が活用・変

	9月21日(月/祝)	9月22日(火/休)	9月27日(日)
	グランド・ルール	グランド・ルール	グランド・ルール
午前	社会的な背景 池上	医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識 福原	HIV感染後の生活と 社会サービス 牧原
	休憩	休憩	休憩
	医学的基礎知識① HIVの基礎知識と 検査法 福原	セクシュアリティの 多様性について 砂川	ピア・サポートの 取り組み 矢島
	昼食	昼食	昼食
午後	プライバシー について 池上・生島	エゴグラムと 交流分析 野坂	相手のある保健行動 ～コンドーム使用と 使用依頼～ ①ワークショップ ロールプレイ ②講義 池上
	休憩	休憩	休憩
	手記を読むワーク スタッフ	セイファーセックス リスクアセスメント 生島・スタッフ	3日間の振り返り 今後の活動について
	振り返り	振り返り	

化していき、お話が腹に落ちていきました。最後には肩の力が抜けて心地よい達成感が残りました。

バラエティー豊かな講師陣や参加者に囲まれ楽しい三日間でした。研修の準備をしてくださったスタッフの皆様、まとまらない話につき合ってくださった参加者の皆様ありがとうございました。

## 「社会のこと、自分のこと、生きること、HIVのこと」

コウヘイ

数年前から参加したいと思っていたのですが、都合がつかずに延び延びに。今回は幸運にもオリエンテーションと研修日程の予定を空けることができました。

シルバーウィークの最中に朝から夕方まで缶詰×3日間。正直「長いなあ」と思っていたのですが、今考えるとあの時間はとても貴重なものとなりました。

「社会のこと、自分のこと、生きること、HIVのこと、etc.……」についてこれまで考えていなかった訳ではないのですが、講義を受け、ワークを進めるたびに自分の知識と意識の狭さと薄さを実感せずにはいられませんでした。知らずに生きることはできるけど、「知らないって怖いことだなあ」と改めて感じてしまいました。

今後は、活動を通して学ぶことを楽しみながら、この活動を必要としている誰かのため、自分のためにできることをやっていければと思っています。

## 「研修で得たもの」

ゆむら

私は今回、HIV/AIDSやセクシュアリティについての「知識」を増やそうと意気込んで、新人ボランティア研修に参

加しました。でも、この研修で提供されたのは、「知識」はもちろんですが、それ以上に、「感じる」、「考える」機会でした。

研修にはいろいろな人が参加していました。この研修に参加しなければ会うことができなかったと思う人

ばかりです。そして、ワークショップでは、そんな参加者の皆さんと、手記を読んだ感想を言い合ったり、セーフセックスについて語り合ったり、ロールプレイをしたりと、自分の思うことを率直に語り合うことができました。いろいろな考え方やいろいろな意見に、気づかされること、考えさせられることがたくさんありました。

研修では、講義やワークショップを通して、私たちはみんな“当事者”なんだよ、というメッセージが強く伝わってきました。相手に何かをしてあげるのではなく、自分も含めた社会のために、自分ができることをあたりまえのこととしてやっていきたい、そう強く思いました。



ロールプレイ「metro保健所」の場面

『「かかわる」ということ—合同研修を終えて』 中野 創  
卒業後の進路に悩み、何か「人にかかわること」に取り組みつつヒントを得ようと、軽い気持ちでボランティアに応募しました。研修の内容は大学の専攻とかけ離れていて、経験も知識もほとんど無い状態からのスタートです。

正直、不安が無いと言えば嘘になります。「他人様の心に直に触れるような仕事が務まるのか」と、研修を前に悩む事もありました。

また、僕たちはどうしても、自分の先入観や偏見によって曇った眼鏡で社会を眺めながら他人とかかわってしまっており、自分もそういうこだわりが強いという自覚はありましたので、今回の研修は眼鏡についた汚れに気づき、丁寧に落としていく作業から始まりました。いろいろな価値観や社会的背景、セクシュアリティを持つ参加者の中で行う研修は、毎回、驚きと発見の連続でした。

等身大の自分で相手を受け入れ、隣人になる。

そういったかかわりの中で、自分自身もempowerしていきたくと思っています。これからどうぞよろしくおねがいします。

## ゲイバーを通じた地域介入プログラムについて

HIV予防のための戦略研究MSM首都圏グループは、市川誠一氏（名古屋市立大）を研究リーダーとして、ぷれいす東京、Rainbow Ring、JaNP+、Cruiseという、HIV感染予防、HIV陽性者支援、HIV陽性者の当事者ネットワークなど多様な活動を行なう4団体が連携しながら実施している介入型の研究プロジェクトです。

### 「私たちがこの研究プロジェクトで目指すもの」

(財)エイズ予防財団 流動研究員 砂川 秀樹

2010年度まで続く「エイズ予防のための戦略研究MSM首都圏グループ」では、男性と性行為をする男性(MSM)の受検者数の倍増、発症で感染がわかる人の25%減少という数値目標が与えられています。しかし、単に検査数を増やせばいいわけではないと、このグループでは考えています。

受けた時に安心して検査を受けられること、感染がわかった場合に支援を受けられること、それらの情報が提示されていること。そして、「コミュニティ」の中で、HIVに感染している人、していない人、わからない人が、ともに生きていることが理解されること。それらを実現しつつ、目標へ向かうことが、このグループの方向性なのです。

しかし、その道は容易ではありません。ですから、様々な方法を用いて取り組んでいます。これまであまり啓発活動が入っていなかった新宿以外の地区にあるゲイバーと関係を深めることもその一つです。そして、その活動がどれだけ影響力があったのかを把握するための質問紙調査もおこなっています。2010年度の終了後、数値的な形だけで



エイズ発症予防を呼びかける「できる！」キャンペーンのロゴ

なく、バーの方々からも「いい取り組みだった」と評価されるものとなればと思っています。

### 「TOMARI-GIというバーママへの情報誌の創刊」

永易 至文

以前にバーのかた向け勉強会「タウンミーティング」を実施したとき、お店の人向けの瓦版のような情報ペーパーがあるといいし、また、その配布を通じて新宿のデリヘルボーイズが回っているお店以外のお店とも交流のきっかけになるのでは、との意見が出され、「プロ向け」冊子として1年前に創刊された『TOMARI-GI』。お客さんを待ってるあいだにちょっと読んで、それが接客での話題になったり、「カウンターからの啓発」に繋がったり、同時にこの冊子で、HIVの問題とバーが地続きで、楽しく飲んでるお客さんのなかにもさまざまなステータスの人がいるんだ、でも、みんないっしょに生きてるんだ、ということの気づきのきっかけになれば、との趣旨から刊行が続けられています。

バーは、MSMコミュニティの一つのかなめとして、コミュニケーションの中心や情報の発信元になっていることは言うまでもありません。戦略研究で制



毎月、ゲイバーのある街が表紙に

作しているさまざまなパンフレット等は誰が読んでも有益な情報が掲載されていますが、カウンターの中にいる人によりターゲットを絞った企画や表現を持ち味とする『TOMARI-GI』。首都圏のお店の人の「止まり木」となればと願っています。

### 「バーのママさま、マスターさま向け勉強会」の報告

ふれいす東京 / (財)エイズ予防財団 流動研究員  
岩橋 恒太

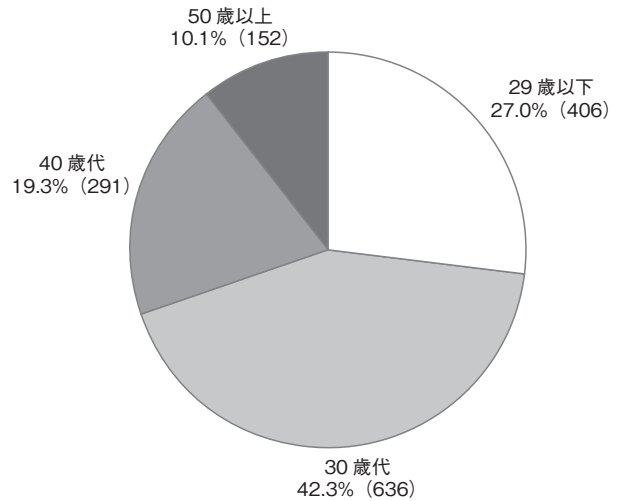
ゲイバー向け季刊誌『TOMARI-GI』の3号(2009年6月)より、私たちはそれぞれ担当の街を決め、可能な範囲でこの冊子と Condom などの配布を開始している。今の私の担当は上野・浅草で、月に数回、約20軒ほどのゲイバーを訪問させてもらっている。訪問するなかで、「ホモのあいだで増えているんだって？」に始まり、長いときには数十分にわたってHIVについて聞いてくれるマスターもいらっちゃった。私は次のTOMARI-GIの読者イベントのテーマは、HIVのファクトを伝えることだ！と思った。

今回のイベントは「歌舞音曲」なし、札幌のママたちの啓発活動を伝えるドキュメンタリービデオとエイズ動向委員会報告、そして2009年2月に実施したバー・アンケートの紹介と、みっちり「バーのママさま、マスターさま向け勉強会」の内容だった。さらに、アンケートに協力してくださった新橋、上野、新宿・浅草、野毛の順に、9月から10月にかけて集中的にすべてまわってイベントを実施するという強行軍でもある。

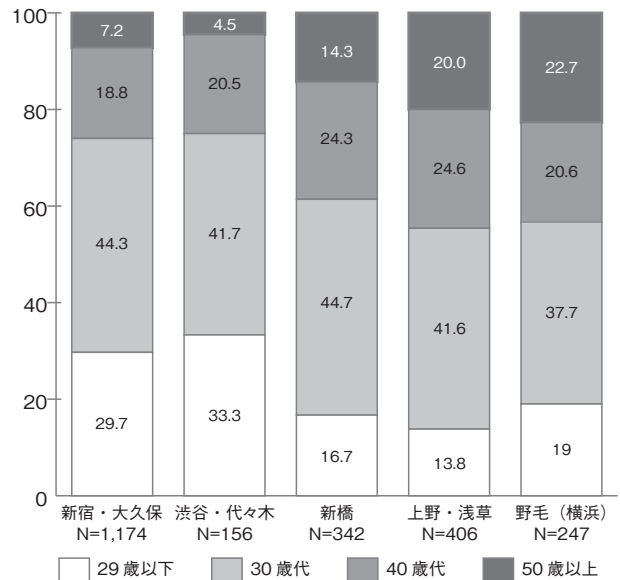
紹介したバー・アンケートは110軒のお店にご協力を得て、1,562人から回答いただいた(2,820部配布、回収率64.7%、分析対象のMSM1,485名、グラフ1参照)。回答者の年齢は、18歳から76歳までの方が参加している(平均年齢36.6歳)。このことは40代以上の方から442件(全体の29.4%)の回答をいただいていたりと、ゲイバーに来ているお客さんのアンケートという限定はあるけれど、幅広い方からの回答をいただけたと考えている。街ごとのお客さんの年齢構成など(グラフ2参照)の基礎情報の他、50代以上の生涯受検率やアナルセックス時のCondom常用率が他の年齢層と比較して、低く出ていることも紹介した(グラフ3参照)。これについては近年の動向委員会の報告で、50代以上の男性同性間でエイズ発症により感染がわかる人の増加が報告されていることとあわせて、マスターたちと意見交換をすることができた。なかには「50代以上が使わないのは、生でやるのが気持ちいいってことを知っている年代だからじゃないの？」という、直球のコメントもいただく機会となった。

イベントの終わり、マスターたちとお話をするなかで、「浅草のバーのママがblogでこのイベントに参加しているって書いてるのをみて、忘れていたけど、急いで参加しようと思ったんだ」と語った、新宿のマスターもいらっちゃった。それぞれの街の点と点が、線で結ばれていくような気がしてうれしかった。訪問を続けている上野・浅草を始め、いろいろな街のマスター、ママさんたちとの信頼関係を今後も、築いていけたらと願います。

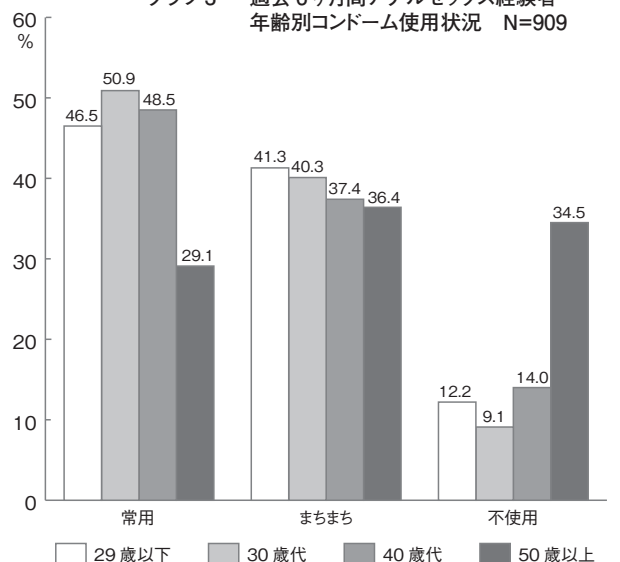
グラフ1 回答者年齢内訳 N=1,485



グラフ2 年齢別利用エリア (複数回答)



グラフ3 過去6ヶ月間アナルセックス経験者 年齢別Condom使用状況 N=909









# 部門報告

## (2009年7～9月)



### ホットライン

エイズ電話相談(ぶれいす東京および東京都委託)

#### 相談実績報告

##### —ぶれいす東京エイズ電話相談—

	7月	8月	9月
日数(日)	4	5	4
総時間(時間)	16	20	16
相談員数(延べ人)	6	6	5.5
相談件数(件)	35	41	35
うち(男性)	27	25	25
(女性)	8	16	10
(不明)	0	0	0
陽性者相談	1	0	0
要確認相談	0	0	0
1日平均(件)	8.8	8.2	8.8

##### —東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	7月	8月	9月
日数(日)	13	14	12
総時間(時間)	39	42	36
相談員数(延べ人)	33	33	31.5
相談件数(件)	245	211	204
うち(男性)	207	176	152
(女性)	36	35	51
(不明)	2	0	1
陽性者相談	0	0	1
要確認相談	1	0	1
1日平均(件)	18.9	15.1	17.0

#### ホットライン部門・活動状況 ( )内は出席人数

- 7月 19日 世話人会(6名)  
スタッフミーティング(15名)
- 8月 5日 H.L.部門研修の打合せ(3名)  
情報整理プロジェクト(3名)  
12日 エイズ学会発表の打合せ(2名)  
14日 東京都電話相談連絡会(2名)  
16日 世話人会(7名)  
スタッフミーティング(13名)  
29日 東京都ボランティア講習会  
「こころのケア～相談を受ける自分のつらさをどう解消するか?」(3名)  
30日 エイズ学会発表のグループインタビュー(7名)
- 9月 1日 情報整理プロジェクト(4名)  
11日 東京都電話相談連絡会(3名)  
13日 合同研修オリエンテーション(2名)  
19日 情報整理プロジェクト(5名)  
エイズ学会発表の打合せ(2名)  
20日 世話人会(7名)  
スタッフミーティング(23名)  
シフト担当引継ぎ(5名)

- 9月 20日 新人ミーティング(8名)  
エイズ学会発表のグループインタビュー(9名)  
26日 新人研修打合せ(2名)

ぶれいす東京の相談件数は安定していましたが、東京都の相談件数には月ごとのバラつきがありました。

また全体的に相談件数は低調です。前回の報告でも触れましたが、やはり新型インフルエンザへの意識が高く、HIVは忘れられているようです。こういう時こそしっかりとした対応をしていきたいと思えます。

この間の活動は、とても積極的に行われました。

(報告：佐藤)



### バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

#### バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

第1木曜 11:00- (奇数月は第1土曜日)

第3木曜 18:30-

7/4 3人 7/16 2人

8/6 中止 8/20 5人

9/5 3人 9/17 5人

※ 個別のミーティング(7月～9月) 6件

#### 利用者数

13カ所の病院に通院中、もしくは入院中の18名の方への22名のバディスタッフを派遣

#### 活動内容(2009年9月末現在)

派遣継続中	21件
在宅訪問	11件
病室訪問	2件
派遣休止	6件
検討中	2件

7月～9月の派遣調整 4件

7月～9月の派遣終了/休止 3件

ニーズの消失 2件

クライアントの死 1件

#### 今後のミーティングの日程

午前ミーティング 11:00-13:00

11/7(土) 12/3(木)

1/9(土)

午後ミーティング 18:30-20:30

11/19(木) 12/17(木)

1/21(木)



※1月の午前ミーティングは、第2土曜日に変更になります。第1土曜日ではないので、お間違えのないようお願いいたします。平日のミーティングに参加できない方、ぜひ土曜日のミーティングにご参加下さい。

### バディの現場から

8月にクライアントの方が亡くなり、1件の活動が終了しました。もともとターミナルになってから依頼のあった方で、短い期間ではありましたが、本人のお手伝いが少しはできたのではないかと思います。また、2件の活動が終了・休止になりました。2件ともご本人から体調面、精神面で安定したので、終了・休止されたいとの意向でした。3つのケースに活動いただいたバディの方、活動お疲れさまでした。ありがとうございました。

今年度も合同研修の終了後の10/4(日)に、バディ・ワークショップを開催しました。今年は9名の方が参加、無事に修了し、バディとして登録を行いました。新人の方はケースを持つまでしばらく待機になりますが、活動になるまで楽しみにお待ちいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

(報告：牧原)



## ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

### ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)	(*ファシリテーターなど)
7月	29日	300名	(10名)	(14名)
8月	22日	193名	(8名)	(15名)
9月	23日	232名	(14名)	(10名)

(\*はファシリテーター、web NEST運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

### カフェ・ネスト

7月：5回 92名  
8月：3回 53名  
9月：4回 74名

### ピア・グループ・ミーティング (PGM)

- ・新陽性者PGM第47期 (参加者7名)  
7/4 (修了)
- ・新陽性者PGM第48期 (参加者7名)  
7/12 7/25 8/9 8/22 (修了)
- ・新陽性者PGM第49期 (参加者7名)  
9/3 9/24
- ・陰性パートナー・ミーティング  
7/11 (4名) 9/12 (7名)
- ・ミドル・ミーティング  
7/11 (12名) 8/8 (11名) 9/12 (7名)
- ・もめんの会 (HIV/AIDS を支える母親の会)  
7/30 (7名)
- ・Women's Salon第7回  
「女性陽性者と人生設計 ～妊娠・出産～」  
7/20 (8名) (詳細p.7)

### 学習会/イベント

- ・ストレスとうまくつきあうためのワーク第9期-3  
7/24 (11名)
- ・ネスト庵「テーブル茶会」  
8/29 (参加者15、ご亭主2)
- ・“専門家と話そう” シリーズ  
第6回「生命保険のプロと話そう」  
9/18 (参加者18名) (詳細P.6)

### ミーティング (陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

- ・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング  
7/11 (5、8) 8/27 (6、6)
- ・web NEST運営委員会  
7/31 (3、2) 8/28 (4、2) 9/25 (4、2)
- ・ネスト世話人会  
7/23 (1、3) 9/3 (1、3)
- ・カフェ・ネストミーティング  
8/26 (1、7)

### ネスト・ニュースレター

7/13 7月号発行  
8/3 8月号発行  
9/4 9月号発行

7月の延べ利用者数は、これまでで2番目に多い300名だった。大きなプログラムはなかったが、カフェ・ネストが5回あったこともあり、92名と過去最高数を記録。また、定期開催のグループ・ミーティングのほかに、もめんの会、Women's Salonが開催され、学習会でも、第9期となったストレスとうまくつきあうためのワークに10名以上の参加者があるなど、プログラム数もプログラム参加者数も比較的多かったことなどから、全体の利用者数が多くなった。反対に8月は、夏休みがあり、オープン日数もプログラム数も少ないことから利用者数が比較的少ない月となっている。(報告：はらだ)



## Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.com>

### Gay Friends for AIDS 電話相談

7月 10件 (1日平均2.50件)  
8月 12件 (1日平均2.40件)  
9月 12件 (1日平均3.00件)

### 聴覚障がい者向けのメール相談対応

7月 0件  
8月 1件  
9月 0件

### この夏は様々なイベントがありました

「エイズ予防のための戦略研究」の一環で、7月に開催された「プレリユード2009」、8月末の「新宿二丁目レインボー祭」、さらにゲイサークルのスポーツイベントなどに

スタッフが参加しました。

特に「新宿二丁目レインボー祭」では、オレンジ色のTシャツを着たキャンペーンスタッフにGフレからも多くのメンバーが参加。うちわなどの配布を行いました。

### webサイトオープンまでの間の情報はブログにて

前号でお伝えしたGフレのウェブサイトですが、オープンまで今しばらくお時間をいただきます。申し訳ありません。

イベントなどの情報はGフレのブログでお伝えしています。携帯からの閲覧も可能ですのでご利用ください。

<http://gayfriendsforaids.blog82.fc2.com/>

### 新しいイベントが始まります

Gフレでは久しぶりになる、トークイベントを企画しています。

タイトルは「アノコト」。セックスにまつわるテーマで、ゲストもお招きしつつ来場者の方にもトークに加わっていただけるようなイベントを目指しています。

第1回は11月14日(土)18:00より新宿二丁目コミュニティセンターaktaにて開催します。

次号ではイベントの様子などをお伝えします。

(報告: sakura)

## HIV陽性者への相談サービス

### 相談実績 2009年7～9月

2009年	7月	8月	9月
電話による相談	151	128	109
対面による相談	66	41	61
E-mailによる相談等	88	76	77
うち新規相談	29	26	26

※メール新規は含まず

### 7～9月の新規相談者の属性 (N=81)

陽性者:	47人 (男性: 42)	女性: 5)
パートナー(元):	19人 (男性: 12)	女性: 7)
家族:	5人 (男性: 3)	女性: 2)
その他:	6人 (男性: 3)	女性: 3)
	判定保留を含む	
専門家:	4人 (男性: 1)	女性: 3)
	生活保護担当、保健所	

### 7～9月新規相談者の情報源 (N=81)

WEB(携帯含)	36件	コミュニティセンター等/NPO	2件
パンフレット等(戦略研究冊子等)	8件	保健所/検査所	2件
陽性者	5件	医師	2件
電話相談	4件	看護師	2件
病院	3件	以前から知っていた	2件
カウンセラー	3件	MSW	1件
パートナー	3件	職場	1件
友人	2件	不明	5件

### 7～9月新規相談の内容 (N=81)

#### 【ミーティング/ネスト利用等】

- ・PGMインテーク&オリエンテーション。
- ・知りあった陽性者にPGMへの参加を勧められた。
- ・ミドルミーティングにでてみたい。
- ・バディ利用の問い合わせ。
- ・病棟の看護師による情報提供で、PGMに参加することに。
- ・SNSのコミュで生命保険の勉強会があることを知り参加したい。
- ・陽性の彼氏とつきあって数年、パートナーMTGに参加を希望。

#### 【ぶれいす東京への参加、サービス利用】

- ・一度、来てみたいと思っていた。
- ・友達にさそわれて、ネストにきてみた。
- ・発症で入院。退院後、ようやく他の陽性者と交流したいと思うようになった。
- ・外国人女性。夫と病院だけで話せるけども、一人で苦しい。
- ・パートナーに紹介された。外国人で学生。
- ・約10年前に告知。その保健所に連絡したら、こちらを紹介された。
- ・女性の相談員と話したいが可能だろうか。
- ・自分は外国人。最近告知を受けた。「たんぼぼ」をみて連絡した。

#### 【検査や告知】

- ・数ヶ月前に、献血で陽性だとわかる。今後のことについて知りたい。
- ・妊産婦検診を受け、翌日に判定保留の結果。確認検査中。(北海道/東北)
- ・数週間まえに保健所で告知。初回数値が低く、入院を勧められている。
- ・息切れで病院にいったらカリニ肺炎だった。落ち着いたら転院といわれている。
- ・体調不調で近医にいき、性病が判明。HIV検査も勧められて受検し、陽性と判明。
- ・皮膚科の医師の気になるコメントで検査にいった。
- ・保健所で告知。病院は都内。制度利用によるプライバシーが心配。(甲信越)
- ・健康診断のオプションで同僚とノリで検査を受け、陽性だった。
- ・ケガがなおりにくく入院。検査をしたら陽性。
- ・大腸検査をする前の術前で感染が判明。
- ・女性。最近、つきあい始めた彼氏が判定保留だった。(東海)
- ・判定保留だった。前回の中絶時には陰性。最近セックスはない。

#### 【医療など】

- ・オペ前の検診で陽性と判明。医師の経験不足が不安。(東海)
- ・脳が萎縮しているといわれ、外出が制限されている。
- ・1週間前に感染がわかった。最近の感染らしい。病院選択について相談したい。

- ・少し前に、パートナーの感染が判明。医療者とのコミュニケーションで悩んでいる。(東海)
- ・ナースに精神科にも通院を勧められたが、役にたかないと感じた。(近畿)
- ・保健所の検査で陽性だった。紹介された拠点病院が通院するには遠い。
- ・病院の都合で検査をすすめられ、検査した結果陽性だった。
- ・オベの必要があり、大阪から都内に移動したい。医療機関との交渉について。
- ・去年告知。先生とウマがあわずに、通院中断。体調が悪くなり、不安に。(関西)
- ・1年前に地元で告知。医療機関がたよりなく都内に引っ越した。

### 【人間関係】

- ・自分は長男なので、家族には病名は言えない。
- ・弟の感染がわかった。弟がゲイだとは知っていた。(東海)
- ・女性。知り合った相手と予防なしのセックスがある。HIV+だと通知されて混乱。
- ・女性。彼から HIV以外の血液の病気があることは聞いていたが、彼の部屋にあるもので、HIV陽性だと知った。
- ・パートナー候補の感染がわかった。対面相談をお願いしたい。
- ・陰性パートナーと合意で予防無しでセックスを実践。別れ話をきりだすと、一生一緒にいるはずだったのと言われた。
- ・術前検査で陽性だった。既婚者で家族には話せない。
- ・陽性の男性とセックスをした。その行為の内容で不安に。
- ・病院で検査をうけ、陽性とわかる。パートナーには未通知。
- ・献血で感染を知った。妻は妊娠中。(近畿)
- ・彼が陽性だとわかった。彼は別れるというけども、自分はどうしたらいいだろう。(近畿)
- ・パートナー候補からの相談。相手から感染を告げられ、戸惑っている。(北海道/東北)
- ・妻。夫の感染がどうしてか判らない。(近畿)
- ・彼女から感染を知らされ、自分は陰性だった。今後のことを相談したい。
- ・数年前に感染がわかった。彼女がいたので通知、受け止めてくれた。
- ・夫の感染が肺炎でわかった。どう対応したらいいだろうか。
- ・パートナーの感染が判明。うつ傾向もあり、どう対応したらいいか。(近畿)
- ・最初お互い陰性を確認。相手の感染経路は気になる。でも、別れない。
- ・きょうだいから。感染を知らされた。どう支援したらいいかを考えている。
- ・女性。夫以外にパートナーがいる。その相手経由で感染した可能性が高い。
- ・家族から。だいぶ前に告知されたが、治療中断。最近、具合が悪くなり入院。
- ・友達の陽性が判明。ペットを飼うことのリスクについて。

- ・女性。急な入院で彼氏の陽性がわかった。これまでに知らない面を知ること。
- ・女性。自分の彼氏は感染リスクのある仕事であったので、びっくりはしなかった。

### 【心理的なこと】

- ・薬物の誘いから逃れるために、移動したのだが、金銭的に困窮。
- ・薬物で服役中に見たテレビで、カミングアウトレターズを知り、ぷれいす東京の情報も得た。
- ・職質で違法ドラッグがでてきた、昔にもらったもの。

### 【生活や福祉】

- ・家の購入を考えている。ローンを組めるかなど、問題点について相談したい。
- ・美術館に手帳で入場しようとしたら、手帳の中身までみせろといわれた。職員の対応に疑問。
- ・昨年暮れ、夫の感染が判明。会社員で健保から情報が漏れることを恐れているらしい。

### 【専門家】

- ・検査で通訳を担当。英語圏のピアなサポートがあれば、知りたい。
- ・生活保護担当：HIV陽性者で薬物依存がある住民に関する相談。
- ・生活保護担当/保健所：認知症傾向がみられる中高年男性。入所施設のトラブルがあり、転居先を求めている。

### 【就労】

- ・海外への転勤の予定がある。現地の情報を知りたい。転職も念頭にいれている。(九州/沖縄)
- ・公務員だった。いろいろかさなり退職。ストレスと買物で経済が破綻。(近畿)
- ・公務員の臨時採用で勤務だが、プライバシーが不安。
- ・最近感染がわかった。服薬を検討中。職場の健康保険をつかうと、どう個人情報が出るのか？
- ・自分はあまり患者がいない病院で見てもらっている。就活中で情報がほしい。
- ・不況で解雇になり、生活設計をどうしたらいいかを考えている。

(報告：牧原/福原/生島)

## 研究部門

### 厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)

「地域における HIV陽性者等支援のための研究」

(研究代表：生島 嗣)

- ・8月9日(日)-13日(木)にインドネシアで開催された第9回アジア・太平洋地域エイズ国際会議に参加し、「地域の相談機関における HIV陽性者への相談対応に関する調査 (Research on Support for PLWHA in Regional Counseling/Support Organizations in Tokyo)」の発表を行いました(詳しくは2ページの報告をご参照ください)。



- ・8月22日(土)~23日(日)に本年度第2回班会議および、支援者の準備性向上のための研修プログラム、HIV陽性者の生活と社会参加に関する調査の結果、全国の保健所を対象とした調査の質問紙の検討に関するセッションを実施しました。
- ・日本エイズ学会学術集会のサテライトシンポジウムとして、11月26日(木)18時より(財)エイズ予防財団研究成果等普及啓発事業「HIV/エイズとともに生きる人々の仕事・くらし・社会」を名古屋国際会議場で開催します。学会員でなくともご覧になれますので、ぜひご来場ください(詳しくは「地域における HIV 陽性者等支援のためのウェブサイト」(<http://www.chiiki-shien.jp/>)をご参照ください)。(報告:大槻)

### エイズ予防のための戦略研究(研究リーダー:市川誠一) MSM首都圏グループ

- ・エイズ発症予防を呼びかける「できる!」キャンペーンが始まりました。web上で「HIV陽性者・その周囲の人たちの経験談募集」を行い、様々な経験の語りが集まっています(HIVマップからご覧ください)。また、HIVをめぐる基礎情報を伝える『FACE TO REAL』の改訂版が、様々な年代に向けたイラストを掲載して完成しました。
- ・MSMへの準備性を高めることを目的とした保健所HIV検査関係者向け研修会を、千葉県(9/11)、東京都(9/18)との協働で実施しました。また、協力関係にある保健所を紹介するwebサイト「あんしん HIV検



9人のイラストレーターによって描き分けられたカード版「Face to real」

査サーチ」の紙版パンフレットが完成しました。

- ・ゲイバーのママ・マスター様向け勉強会、TOMARI-GI café EVENTを新橋(9/26)、上野(10/1)、新宿(10/5)、野毛(10/17)で実施。主に08年度に実施したバーアンケート、08年度エイズ動向委員会報告の紹介をしました。
- ・携帯電話アンケートをPrelude、Living Together計画、スポーツ系サークルの3つのグループで実施しています。(報告:岩橋)

### MSM京阪神グループ 「陽性者サポートプロジェクト関西(POSP)」

- ・web、ビジュアル等、イメージをリニューアル作業中。
- ・陽性者サポートライン関西  
電話相談 7月-9月:9件
- ・ひよっこクラブ  
第1期を実施し、参加者6人で3回のミーティングを修了した。振り返りミーティングも終了。第2期を1月に開催予定。
- ・地域カンファレンス  
8月20日に、テーマ「大阪の検査体制、医療体制」として、参加者38名(保健師:8名、医療従事者:9名、NPO・NGO:13名、発表者:2名、chot CASTなんばスタッフ:2名、スタッフ:4名)で開催された。  
11月3日に次回地域カンファレンスを保健師向けに行う。大木幸子氏を講師に予定。
- ・大阪版たんぼぼプロジェクト  
大阪市が印刷費を予算化し、chotCAST、大阪府も協力。(報告:生島)

### ◆◆ ぶれいす東京より 賛助会員入会・寄付のお願い ◆◆

HIV陽性者の数は年々増え続けています。新たな治療法は開発されていますが、治療を続けながら生活する上では様々な問題が発生しています。HIV陽性者とその周辺の人たちへの支援、コミュニティとして取り組んでいる予防活動等、私たちの活動へのニーズがますます高まっており、必要な運営資金も増え続けています。よりよいサービスやプログラムを継続するために、ぜひ私たちの活動を応援してください。

#### 賛助会員入会のお願い

継続して応援して下さる方は賛助会員になってください。

--- 賛助会員になるには? ---

メールか電話/FAXで賛助会員入会をお申し込みください。折り返し、ぶれいす東京の案内と賛助会費専用の振込用紙をお送りします。

E-MAIL [info@ptokyo.com](mailto:info@ptokyo.com)  
電話 03-3361-8964 FAX 03-3361-8835  
年会費 個人賛助会員 (一〇) 1万円  
団体賛助会員 (一〇) 10万円

#### 寄付のお願い

そのほか随時寄付をお受けしています。ぶれいす東京の活動をぜひともご支援ください。ご寄付はいくらでも結構です。匿名でも可能です。

--- 寄付の振込み方法 ---

◇ぶれいす東京の活動全般に対する寄付

郵便局 郵便振替口座 No.00160-3-574075  
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子  
銀行 三井住友銀行 高田馬場支店 普通 2041174  
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子

◇HIV陽性者への直接支援活動「ネスト/パディ」への寄付

銀行 三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店 普通 1314375  
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子

◇Gay Friends for AIDSの活動への寄付

銀行 みずほ銀行 高田馬場支店 普通 5507255  
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 理事 生島 嗣

#### 編集後記

- ・窓ガラスを磨いた。部屋の中の掃除と一緒にしたら、スッキリ感倍増! 年末行事と思いついて窓の掃除...習慣になりそうです。(こんどう)
- ・先日、免許更新で写真を撮った。出来た写真が、自分でも意外なほど怖い顔。これって、自分を映す鏡なんだろうね。気をつけないと。(いくしま)
- ・部門報告が4ページ半と過去最高のボリュームに。いつもはこのコーナーを読み飛ばしている方も、ときにはじっくり活動の詳細に目を通してみたいかがでしょう。いろいろな発見があると思いますので是非!(やじま)

#### 編集・発行: 特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス204  
TEL: 03-3361-8964 (月-金 12:00~19:00)  
FAX: 03-3361-8835  
E-mail: [info@ptokyo.com](mailto:info@ptokyo.com)  
ぶれいす東京 HP: <http://www.ptokyo.com/>  
Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>  
web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>